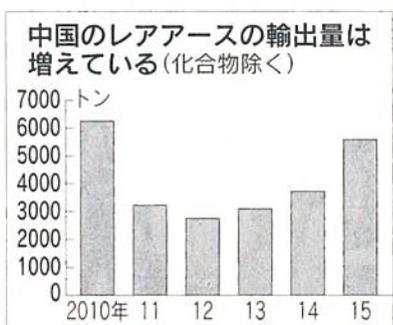


# 中国、在庫解消メド立たず

## レア金属余剰



家電などハイテク製品に欠かせないレアメタル(希少金属)。主産地の中国で供給過剰が長引き、国際価格は軒並み約10年ぶりの安値圏に沈む。中国の生産会社の在庫解消のメドがたたない。日本企業にも事業見直しの波が押し寄せている。

「今年に入って中国の生産会社は率先して値下げを打診してくるようになった」。レアメタル商社、マテリアル・トレイディング・カンパニー(東京・港)の小滝秀明代表

## 過剰な違法採掘 追い打ち

取締役はそう漏らす。弱気な中国企業の背景にあるのは過剰な在庫だ。中国企業の抱える在庫

はこれまで中央政府が備蓄して吸い上げてきた。レアメタルの一種であるレアアース(希土類)の場合、2012年から14年まで世界の生産量の1割にあたる年間1万トンを備蓄。15年も備蓄を試みたが、生産会社が売値を上げたいため政府が拒

否し、入札が成立しなかった。狙いが外れた生産会社は一斉に安値売りに転じている。

実質的な違法採掘も過剰な供給に追い打ちをかける。日本のある大手磁石合金メーカーの幹部は「中国南部の生産会社を訪れた際、現地企業の幹部の言葉を聞いてがくせんとした。中央政府が決めた採掘指定量の2倍近くを掘っているという。我々は資源税を払っているから、違法採掘ではない」との言い分だ。もともと中国南部でとれるレアア

ースは採掘しやすい。環境対策もなおざりなため生産コストが低い。

資源税は環境保護を目的とした税金。地方政府の税収にもなるため、企業が過度な採掘をしても黙認するケースが多い。こうした中央政府の規制をかいくぐった採掘が減らない。高性能磁石に使うレアアースは1ヶ月前後、258トンの前後と、ここ1年で5割下がった。

相場下落で中国の輸出は増えた。15年のレアアース輸出量(化合物除く)は14年比5割増の約5600ト。値下がり調達を増やす需要家が増えた。米国で石油精製触媒に使うランタン、日本でレアメタル取引所に大量の

好調な輸出を受けて、中国政府は16年1〜6月の企業に割り当てる生産枠を前年と同じ5万2500トに設定。15年1月に輸出枠を撤廃する際、生産枠を大幅に増やした経緯があるため、今回の据え置きは高水準な生産を承認したことになる。

だが輸出だけでは余剰な供給を吸収しきれない。他のレアメタルも構図は同じだ。鋼材に添加するモリブデンは、1ヶ月前は55トと約13年ぶりの安値圏にある。難燃助剤に使うアンチモンや液晶部材に使うインジウムは、ここ1年でそれぞれ4〜5割安くなった。15年秋に経営破綻した中国のレアメタル取引所に大量の

在庫が保管されている。在庫放出の懸念が相場を押し下げている。

取引所は15年夏に資金難から取引を停止。今年2月には取引所のトップを含め16人が詐欺容疑で逮捕されるなど刑事事件に発展している。取引所にはインジウムが世界需要の3倍以上、はんだに使うビスマスは世界需要と同程度残っている。

レアメタル商社、アドバンストマテリアルジャパン(東京・千代田)の中村繁夫社長は「混乱が完全に収束するまで数年はかかる。その間、取引所の在庫が意識され、相場場の重荷になる」と話す。

中国事情に翻弄されるレアメタル相場。波乱の出口はまだ見えない。

ネオジムなどは、ここ1年で5割下がった

政府系の石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)は2015年12月、オーストラリアのタンクステン鉱山の共同探鉱の契約を解消した。タンクステンは超硬工具の原料で、世界供給の8割を中国が占める。

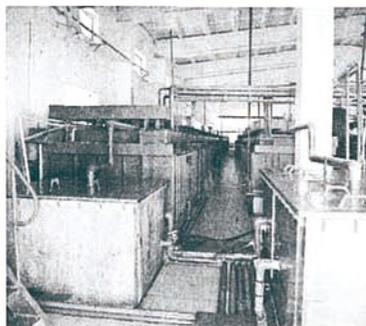
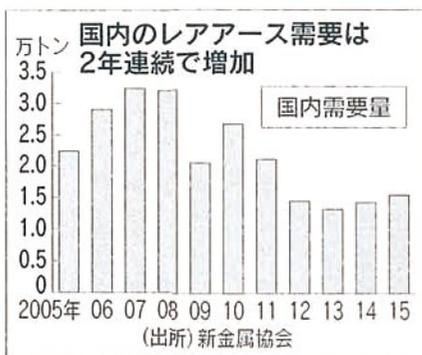
JOGMECは豪州の探鉱会社と共同で11年に参入し、約4億円の探鉱費用を負担してきた。同機構は権益をもちずに資源量などを算定した後、権益を得たい日本企業に引き継ぐことを目的としていた。

だが、相場が参入当時と比べて6割安と予想以上に下がった。権益に興味を示していた商社の関心もなくなった。

「今の価格の2倍くらいないと投資しても回らない」と見直した。今年2月、昭和電工の市川秀夫社長はレアアース7月末に中国のレアアース事業に「他社との提携」をめぐり「他社との提携」

## 日本勢 関心低下に不安も

### レアメタル余剰



中国は今年6月までに生産工場を6社に集約する

## 世界供給 中国の寡占進む

社を解散すると発表した。中国などに偏在するレアメタル。供給源の多様化は日本にとって長らく課題だった。10〜11年にかけて、尖閣諸島を巡る日中対立をきっかけに中国が事実上の禁輸措置をとり、価格が高騰。高性能磁石に使うネオジムは現在の10倍まで上昇した。

日本はその後、リサイクルや代替材の開発を進めてきた。ただ、自動車などの軽量化や高性能化が求められるなか、国内産業にとって欠かせない資源であることに変わりない。

「価格の下落で、使用量を抑える動きが鈍っている」。省レアメタルを進め

る大手自動車メーカーの技術者は話す。自動車のレアメタル使用比率は高く、モーターや窓ガラスにも使っており、値下がり恩恵は大きい。大手磁石メーカーの幹部は「エアコンのモーターに再びレアアース磁石を使うなど家電メーカーの姿勢も変わってきた」と話す。小型化にはレアメタルを使う方が効率が良いためだ。勢の関心が薄れるなか、中国は再び覇権を握ろうとしている。今は相場の下落で供給不安が薄れているが、中長期的には安定供給が揺らぐ可能性もはらんでいる。

と、昨年6月に経営破綻した米生産大手モリコブの買収に中国企業が関心を示しているという。「買収をもちかけられたが断った」(日本の大手商社)。日本

水面下で市場の寡占化も進む。中国では今年6月までに100社を超えるレアアース生産会社の6社への今橋瑠璃華が担当しまし